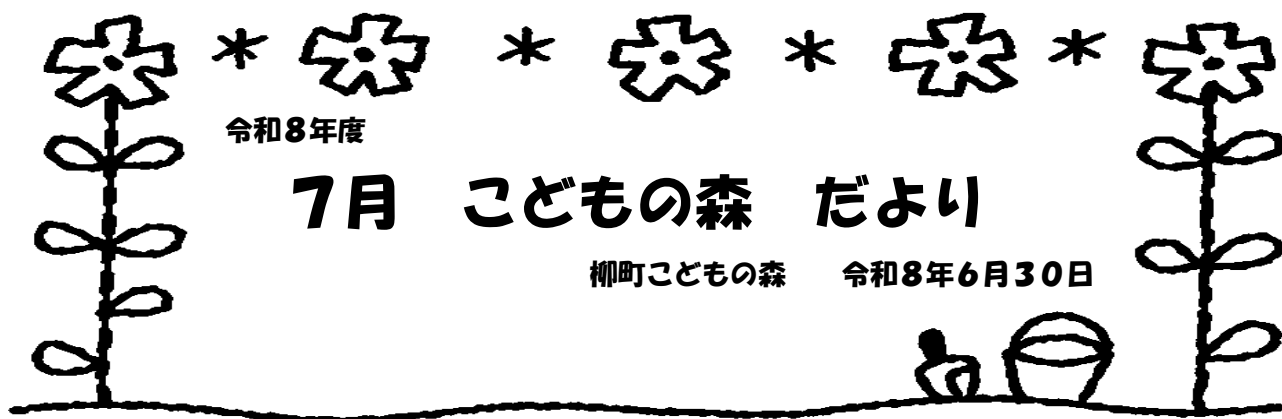




異年齢の関わりの中で学ぶこと

副園長 野本 和美

梅雨に入りましたが、子どもたちは変わらずに元気いっぱい、晴れやかな顔で楽しい遊びを繰り広げています。

今年の4歳児と5歳児は「お店屋さんごっこ」が大好きです。箱積み木や机を運んでお店を作り、自分たちで作った品物を並べ、お店をオープンさせています。（ピザ屋、ケーキ屋祭りの屋台、なんと足湯コーナーも！）保護者の方との日々の何気ない生活経験や自分の経験したことが、遊びの楽しさや充実につながっていることを感じます。

お店屋さんになくってはならない要素がお客さまです。毎日、子どもたちは「〇〇屋さんがオープンしました。来てください」と他学級の子を呼びに行き、異年齢の自然な関わりが始まっています。自分より小さい組の子が来ることで、子どもたちの対応も変わります。特に1・2歳児の子には、しゃがんで目線を合わせ「ここに並んでね」と伝え、買い方や座る場所など、手を引きながら優しく教えています。自分たちで考えて行動している姿を見るたびに、相手に合わせた態度や優しい気持ちは、遊びや生活の中での経験から学び、身に付いていくのだと実感します。

これからも、柳町こどもの森ならではの1～5歳児の関わりが生まれるように、保育者同士の連携を密にするとともに、異年齢の関わりの中での様々な学びを支え、積み重ねていきます



順番に並んで、ほしいものが買えました



お店まで、お姉さんがしっかりとご案内